

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成23年度病害虫発生予察特殊報第2号について（送付）

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。

なお、病害虫防除所ホームページ（[www.jpjn.ne.jp/kagoshima](http://www.jpjn.ne.jp/kagoshima)）にも掲載しています。

## 病害虫発生予察 特殊報第2号

平成24年2月23日  
鹿児島県病害虫防除所

1 病害虫名 チャトゲコナジラミ *Aleurocanthus camelliae* Kanmiya and Kasai

2 作物名 チャ

### 3 発生確認および発生状況

平成24年1月に鹿児島県屋久島の茶園において、すそ部（下位葉）にすす病の発生が見られ、葉裏にトゲコナジラミ類幼虫の寄生を確認した。採集した幼虫を（独）農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所金谷研究拠点を通じて久留米大学比較文化研究所の上宮健吉博士に同定依頼した結果、チャトゲコナジラミであることが判明した。

本種は平成16年に京都府のチャで初めて確認され、現在までに静岡県、福岡県、大分県、熊本県等の17都府県で発生が確認されている。

なお、本種は当初ミカントゲコナジラミのチャ系統として発生及び被害が報告されてきたが、平成23年3月に新種として登録された。

### 4 形態及び生態の特徴

#### （1）形態

ア 成虫の体長は雌が約1.3mm、雄は約1.0mmとやや小さい。前翅は紫褐色で不整形の白斑があり、虫体は橙黄色であるが白粉で覆われているため灰色に見える（写真1）。

イ 孵化幼虫は淡黄色で、2～4齢幼虫は光沢のある黒色で周囲に白色口物質があり、周囲と背面に多数の刺毛を有する。4齢幼虫は長さ約1mmである（写真2）。

ウ 卵は長さ0.2mm、淡黄色の勾玉状で、基部には短い柄がある（写真2）。

#### （2）生態

ア 卵、1～4齢幼虫を経て成虫になる不完全変態の昆虫である。既発生地域では年間3～4世代を繰り返すが、主に3齢及び4齢幼虫で越冬し、越冬世代成虫の発生時期が一番茶の生育期～摘採期と重なる。

イ 幼虫は葉裏に寄生し、孵化直後の幼虫は歩行移動するが、定着後の幼虫は移動しない。

ウ 成虫の寿命は約4日と短い、羽化後間もなく交尾し、主に葉裏に産卵する。

エ チャの他、サザンカ、ヒサカキ、サカキ、シキミ等にも寄生する。

#### （3）被害

ア 成虫は新芽に群がり吸汁加害する。

イ 幼虫は葉裏に寄生して吸汁加害するほか、幼虫が排泄する甘露によりすす病が誘発される（写真3、4）。

ウ 成虫の発生が茶葉摘採期と重なるため、摘採作業中に作業者が成虫を吸い込む等の不快感が問題となる。

#### （4）分布

ア 東アジアの熱帯から温帯に分布し、中国ではチャの重要害虫である。

## 5 防除対策

- (1) 発生地域からの苗木，生葉及び人や共同利用機械等の移動による本種の拡散に注意する。
- (2) 幼虫は下位葉，成虫は新芽によく集まるので，定期的にこれらの部分の葉裏を観察し，早期発見に努める。
- (3) 成虫は黄色に誘引されるため，黄色粘着トラップを茶園に設置し，発生を確認する。
- (4) 卵から幼虫までの期間は葉裏に寄生していることから，中切りせん枝などにより効果的に寄生葉を除去し，次世代の密度抑制を図る。なお，せん枝した枝葉は本種の発生源となるため，放置せず土中に埋設する等，適切に処理する。
- (5) 越冬時期には幼虫に対するマシン油乳剤により防除を行う。
- (6) チャの生育期の薬剤防除は，若齢幼虫の発生時期が適期である。若齢幼虫は成虫の発生が終息する時期から増加するので，成虫の発生状況をよく観察し，若齢幼虫の発生時期を把握して適期防除を心がける。
- (7) 散布は，寄生の多い下位葉の葉裏に十分にかかるように丁寧に行うが，薬剤散布前に深刈りせん枝やすそ刈り等を行うと薬剤がかかりやすくなる。
- (8) 疑わしい虫の寄生やすす病と思われる症状を認めた場合は，病害虫防除所，農業開発総合センター茶業部または最寄りの支庁・地域振興局農政普及課に連絡する。

## 6 参考資料

「チャの新害虫チャトゲコナジラミの防除マニュアル」

編集：ミカントゲコナジラミ(チャトゲコナジラミ)研究推進連絡会

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryu2/index.html>



写真1 雌成虫  
(久留米大学 上宮健吉博士提供)

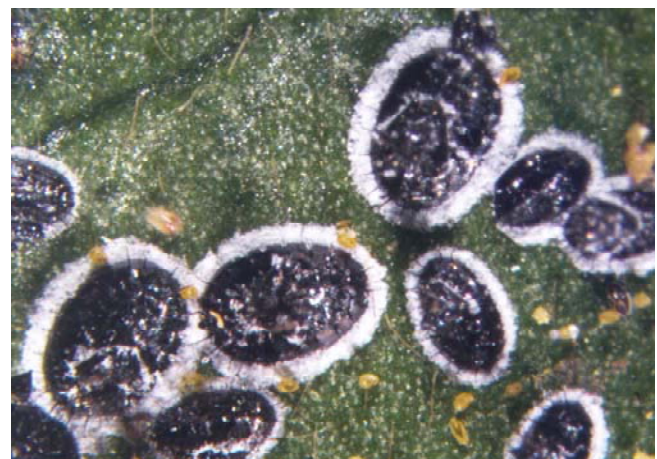


写真2 卵(淡黄色)および幼虫



写真3 葉表のすす病と葉裏への幼虫寄生の状況



写真4 すそ部のすす病発生状況